

会 議 録

会議名	令和5年度 第1回 宇都宮市廃棄物減量等推進審議会
開催日時	令和6年2月14日(水) 10:00～11:30
開催場所	宇都宮市役所 14D会議室
出席者	<p>【委員】手塚泉, 出井昌子, 小室かな子, 今井政範, 石川順章, 小松整洗, 野澤克子, 増渕祥子, 上野すみ子, 竹井正浩, 高橋克彦, 野尻昌彦, 河本聖業, 大八木延子, 福田光子 計15名</p> <p>【事務局】環境部長, 上下水道局技術担当次長, 環境部次長, 環境部副参事, 環境創造課長, 環境創造課総務担当主幹, 環境保全課長, 廃棄物政策課長, 廃棄物政策課主幹, ごみ減量課長, 廃棄物施設課長, 下水道管理課長, 下水道建設課長, 水質管理課長, 廃棄物政策課課長補佐, 廃棄物政策課職員6名, ごみ減量課職員3名, 下水道管理課職員2名</p>
公開・非公開	公開
傍聴者	—
議題	<p>1 会長選出</p> <p>2 一般廃棄物処理計画における令和5年度の実績及び令和6年度実施計画の策定について</p>
会議結果	<p>1 委員の互選により今井政範委員を会長に選出。</p> <p>2 議事について了承。</p>

主な質疑応答	
一般廃棄物処理計画における令和5年度の実績及び令和6年度実施計画の策定について	
小室かな子委員	「基本方針2 し尿・浄化槽汚泥等の適正な処理」の取組指標「し尿・浄化槽汚泥処理量」について、見通し値に比べて実績値が上回っており、また、令和7年度の短期目標と大きく乖離しているが、目標は達成する見込みか。
事務局	令和2年度の計画策定時の目論みと乖離している状況のため、令和7年度の計画改定時に数値の見直しを検討する。
出井昌子委員	令和6年度宇都宮市一般廃棄物処理実施計画(案)の本計画と関係が深いSDGsの目標の欄に、「目標13気候変動に具体的な対策を」が掲げられており、この目標には二酸化炭素の削減という意味合いもあると考えるが、本計画では二酸化炭素の排出量について明確な指標がない。宇都宮市は脱炭素の取組を行っているので、施策事業に脱炭素化推進との連携を入れ、市民一人あたりのごみ処理で排出される二酸化炭素量の取組指標を設定してはどうか。
事務局	二酸化炭素の削減については、宇都宮市カーボンニュートラルロードマップに基づいて取り組んでいる。その中には、廃棄物処理施設等から排出される二酸化炭素も含まれており、2030年度までに市全体で二酸化炭素の排出量を、2013年を基準として半分まで削減することを目標に取り組んでいるところである。廃棄物処理施設から中間処理に伴って排出される二酸化炭素は、クリーンパーク茂原の施設だけでも、年間約1万tと推計されているが、ごみの処理方法や種類によって変化するため、目標として設定するに値する正確な数値が出せるか等を検討する必要がある。また、今回の議事である実施計画は、5年ごとに改定する一般廃棄物処理基本計画に基づき、毎年、単年度の目標を決めていくものであるため、実施計画の中で新しい目標を定めたり、取組指標を設けたりするのは難しいので、次回の一般廃棄物処理基本計画の改定に合わせて検討をしていく。

出井昌子委員	実施計画の中に、一人1日当たりの家庭系ごみ排出量といった個人の指標も入っているので、二酸化炭素排出量についても市全体だけでなく、個人の指標も出した方がいいのではないか。
事務局	まず、数値の算出や進捗管理できる目標であるか等を改めて検討する。
出井昌子委員	承知した。二酸化炭素の問題は目前に迫っている危機であるため、廃棄物の計画でも積極的にアピールしてほしい。また一般廃棄物処理基本計画に、食品ロス問題や海洋プラスチック問題に対応するために設定した資源循環プロジェクトがあるが、ここにもプロジェクトの一つとして脱炭素について入れてほしい。
石川順章委員	ごみ分別アプリ「さんあ〜る」やフードドライブ等、目標値を十分に達成している状況であり、令和7年度までの目標も容易に達成できるような状況と思うが、これらに関して、今後目標値の上方修正等は考えているか。
事務局	既に目標達成しているものもあるが、次期改定の令和7年度までについては具体的な目標値を定め直すことはしない。目標は達成しているが、さらに目標を上回るような周知啓発や取り組みをしていく。
小室かな子委員	ごみをごみステーションまで持ち出すことが困難な高齢者等について、戸別訪問によるごみ収集を実施するようになっており、これは市民の申出によって、実施していると思うが、過去に申請を断ったケースはあるか。
事務局	身体障害者や介護認定を受けている一人暮らしの市民で、ごみを排出することが難しい方を対象に実施している事業である。申請があった際には、現地訪問を行い、生活状況の確認をしたうえで、実施の対象とするか決定している。申請のあったものの多くは認定し、戸別収集を行っているが、状況確認したうえで条件を満たしていないため、断るケースも一部ある。
小室かな子委員	少し足腰が不自由ではあるが、高齢者でも介護認定も受けておらず、対象にならなかった場合には、「エールU」に繋げるという視点も持ってほしい。
大八木延子委員	クリーンパーク茂原の火災を繰り返してはいけないと思い、分別方法が変わったモバイルバッテリーやリチウムイオン電池の出し方について、近隣自治会も交えて、数回講習会を実施した。また、民生委員をやっており、一人暮らしの高齢者へ訪問しているが、分別が分からず全て焼却ごみにいれてしまう人もいる。民生委員は一人暮らしでごみの分別が難しい高齢者の家にも訪問をしているので、その際に民生委員からごみの分別の周知するようにしてはどうか。
事務局	今年度の4月から電池類の分別方法を変更して、リサイクル推進員や不動産管理会社等を通して周知はしているが、一人暮らしの高齢者などに、きめ細やかな周知ができるよう福祉部門と連携し、庁内で検討していきたい。
福田光子委員	ごみの排出曜日が分からないため、曜日に関わらず排出してしまう人もおり、それらのフォローは気がついた人がしている状態になっている。
事務局	茂原の焼却施設の火災では大変ご迷惑をおかけした。施設は既に復旧しており、今回の火災の原因は特定できていないが、発火物の混入と考えられる。焼却施設については、復旧に併せて火災覚知や放水銃の強化に取り組み、今年度中には全て完了している。来年度以降は、資源物の中にも不適物の混入が見られるため、資源化施設の火災対策についても引き続き強化していく。施設としても、引き続き火災対策に取り組んでいくので、市民の皆様にもご協力いただきたい。
今井政範会長	ごみについて、市役所に全て任せることは難しいため、地域で各々が考えて行動できるような体制になっていてもらいたい。福祉関係との連携についても協力してしてほしい。
増渕祥子委員	全体的にA評価がたくさんあり、安心した。プラスチック容器包装について、コロナ禍でテイクアウト文化が定着し、弁当の利用が増えていると思うが、プラスチック製容器包装をどこまできれいにすれば資源になるのか判断が難しいので、今後それをもう少し示してほしい。また、リサイクル推進員の活動は施設見学以外見えてこないもので、リサイクル推進員の活動について改めて考えてほしい。最後に自分の住んでいる地域の廃棄物収集業者の方は感じが良く、挨拶も徹底されており、ごみステーションの間を走って、ごみを収集車に載せており、とても爽やかで良いと思う。

小室かな子委員	小中学校の給食の残飯を学校の中で処理するという話について、実施を希望している学校数と今後どこまで規模を拡大するかについて教えてほしい。
事務局	小中学校における給食残渣資源化に向けた実証実験の実施については、現在、焼却ごみになっている給食残渣を資源化する取組である。来年度は、まず実証実験として、小中学校10校程度で給食残渣を排出し、処理施設まで運搬、処理する実施体制や費用対効果を検証し、課題を整理していくこととし、最終的には市内小中学校全校に広げていきたいと考えている。
大八木延子委員	先ほどリサイクル推進員の活動について、ご意見いただいたが、私も10年以上リサイクル推進員をやっている。リサイクル推進員の活動については、自治会によって温度差があるが、私の地域のリサイクル推進員は、8年間にわたり、小学校5校、中学校2校、県立高校2校の9校を集め、SDGsをテーマにしたポスターを書いてもらい、環境ポスター展を開催している。ポスターは近隣の図書館や地区市民センターに展示し、各学校の校長先生やPTA、地元住民を呼んで、地域に周知している。今年は新たに2つの幼稚園等を追加し、11団体で行ったポスター展を開催した。周知すること、意識づけることが大事と思っているので、引き続き、私も地域のリサイクル推進員として頑張っていこうと思う。
事務局	リサイクル推進員について、地域によって活動の状況差があるのは確かであるが、リサイクル推進員は市内で約800名おり、新任のリサイクル推進員には新任研修会を実施し、継続して推進員を務めている方にも全体研修会を開催し、リサイクル推進員の役割等について研修を行い、地域で活動していただいている。コロナの影響で中断していた時期があったが、茂原のリサイクルプラザやエコプラセンター下荒針等のリサイクル施設の見学も今年度から再開した。各地域で活動状況に差はあるが、分別講習会の実施や各地区のお祭り等のイベントで分別ゲームを行う等、様々な活動をしていただいているので、引き続きご協力をいただきたい。